

日本新生児成育医学会 2025 年度 第 3 回理事会 議事録

日 時：2025 年 5 月 27 日（火）18：00～21：00

形 式：Web 会議システム Zoom を利用

出席者：高橋尚人（理事長）、荒堀仁美、諫山哲哉、落合正行、北畠康司、日下 隆、
河野由美、佐藤義朗、東海林宏道、長 和俊、徳久琢也、豊島勝昭、中西秀彦、
難波文彦、水野克己、森岡一朗、山田恭聖、芳本誠司、和田和子（各理事）
早川昌弘、細野茂春（各監事）、有光威志、和田友香（各幹事）

欠席者：影山 操（理事）、小田 新（幹事）

（敬称略）

議 事：

議事に先立ち、高橋理事長より定款 41 条に則り、出席者が開催可能人数に達しており、理事会が成立する旨説明があった。

1. 理事長報告

1) 通信理事会議決結果報告の件

議決を取ったものは 1 件、その他のお知らせなどは 4 件であった。

2) 2025 年度会計報告の件

10～3 月分までの会計として 2025 年度は全会員 2,616 名中、名誉・功労会員 161 名を除く 2,455 名のうち、延べ 1,850 名（70.7%）（3 月 31 日時点）より納入され、代議員費を合わせて 23,679,456 円の会費納入となった。

予算算出時、年会費の納入は退会者を見越して例年 2 割減で算出しているが、ここ数年は退会者が減り、入会者が増えている。予算算出時の経常収益額より増える見込みである。ただ、認定医試験費用は予算より 70 万増額している。

3) 新規入会の件

2025 年 2 月 1 日～5 月 19 日までの新規入会者は 15 名であった。

4) 日本先天性心疾患インターベンション学会への参加委員交代の件

日本先天性心疾患インターベンション学会の「低体重児の動脈管開存症に対する経カテーテル動脈管閉鎖術管理委員会」へ当学会からも委員として参加しているが、片山義規先生から加藤文典先生に交代した。

5) 川崎市役所のホームページに「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのための Q & A」掲載の件

川崎市役所こども未来局総務部危機管理より依頼があり、「被災地の避難所等で生活をする赤ちゃんのための Q & A」の掲載および「災害対策関連情報」へのリンクを承諾した。

6) 『小児 RS ウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン 2021』印税の件

株式会社協和企画より『小児 RS ウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン 2021』の 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日までの著作権使用料として、29,125 円（日本小児呼吸器学会と折半）が 5 月 31 日に振込予定。現在、改訂作業中であることが森岡理事より報告された。

7) 日本小児科学会の分科会推薦総説募集中の件

例年、日本小児科学会より案内のある総説の執筆について、6 月 13 日（金）を締切として推薦を募っているが現時点で申込は 0 件となっている。必ず提出する必要があるため、推薦していただきたい。

8) 日本 NICU 家族会機構（JOIN）の論文が『European Journal of Pediatrics』誌に掲載された件

日本 NICU 家族会機構（JOIN）より在胎 22 週・23 週などの成育限界期にある児の治療に伴う倫理的課題

をJOINで包括的にレビューした論文が『European Journal of Pediatrics』誌に掲載されたことが報告された。JOINの代表理事である有光幹事より当事者家族の視点、社会的認識や法律も含めて、多角的に検討した論文であることが報告された。

9) 外部理事、外部監事、選挙の件

理事長、副理事長、監事、総務委員会委員長で検討している。前回の理事会で報告した通り、外部理事、外部監事については公益社団法人法の改正で設置する必要がある。4月に開催された「日本小児科学会学術集会」の総会での報告を参考に定款の変更を進めていく。

10) 第72回学術集会大会長の件

第72回学術集会(2028年)大会長の立候補は7月31日(木)を締切としている。立候補者は提案書を事務局へ提出。次回理事会で大会長を決定したい。

11) 仁志田博司賞募集の件

昨年度、新設した仁志田博司賞について、昨年と同時期である7月上旬より受付を開始し、8月31日(日)締切を予定している。

12) 『新生児学テキスト』改訂の件

2018年にメディカ出版より刊行した『新生児学テキスト』の改訂の話がでている。

理事の先生方には各章の担当をお願いしたい。各章は理事が担当するが、章内は複数の先生が執筆している。立候補者は事務局まで連絡をお願いします。本学会編集として進めていきたい。

13) 理事長職務報告

通信理事会の発信、転載許諾申請の承認、学会ホームページ掲載依頼、後援依頼、共同提案依頼への対応、問合せ対応を行った。

2. 審議事項

第1号議案 第68回学術集会収支報告の件(中村友彦大会長)

収支に関して有料参加者は1,039名、招待者を含めると参加者は約1,200名であり、収入は予定通りであったが、支出が予定より増額した。税理士より指摘のあった「事前準備費」については学術集会のシンポジウム、ワークショップの企画・立案のために長野県立こども病院の何人かの医師・看護師が休暇をとってフィンランドのTurku大学に見学、打ち合わせに行った際の渡航費と現地滞在費である。また招聘講演の演者に事前リハーサルのために来日いただいた際の渡航費、宿泊費、滞在費も計上されている。

招聘関係費はJoint congressの招聘費を学術集会が負担したこと、本学術集会は海外からの招待が多かったこと、円安の影響で渡航費が高騰したことから予定より3倍近くの金額となった。また、委員会企画の講師に非会員が多く、参加費、講演料、交通費、滞在費を負担した。以上のことから支出は予定より増えたが、本学会においてはコンベンション会社を入れずに開催したためその分の経費を削減することができ、学会補助金は全額返金予定であることが報告された。

高橋理事長よりJoint congressも同時開催され、会場手配等にも配慮いただいたことへ感謝の言葉が述べられた。

第68回学術集会の収支報告について出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

今後の課題として委員会企画の非会員への支払いは学術集会が負担することなく、学会本体で負担するべきであり、学術集会の補助金の値上げも検討するべきであると提示された。

第2号議案 IPOKRaTES JAPAN 開催における共催金の件(難波理事)

2023年度第2回理事会で本学会からの共済金は50万円と決まった。コンベンション会社に収支見込の提出を依頼し、共催金の増額について審議する。

IPOKRaTES JAPANは他の学術集会やシンポジウムと異なり、参加費はIPOKRaTES本部へ納入され、海

外の演者の渡航費は本部が負担する。

IPOKRATES 本部からは日本側が赤字にならないよう補填するとメールの履歴があることが難波理事より報告された。

高橋理事長より、参加者を集めるために理事の先生方には自施設の若手医師への広報とセミナーや展示で紹介できる企業があれば紹介いただきたいと要望があり、50 万円を追加し、共催金を 100 万円とすることが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。状況によっては増額を再検討する。

第 3 号議案 Travel Awards の推薦の件（難波理事）

学術奨励賞・学会論文賞と、優秀演題賞の受賞者から選出された以下 6 名を Travel Awards の受賞者とすることが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

星野 雄介 先生（茨城県立こども病院新生児科）	（2023 年度学会論文賞）
中村 信嗣 先生（香川大学医学部小児科）	（2023 年度学術奨励賞）
澤田真理子 先生（倉敷中央病院小児科）	（優秀演題）
三谷 真優 先生（名古屋大学心の発達支援研究実践センター）	（優秀演題）
中井 洸我 先生（徳島大学医学部医学科）	（優秀演題）
福井 加奈 先生（国立成育医療研究センター新生児科）	（優秀演題）

第 4 号議案 フォローアップ認定医制度 E-learning 講義のコンテンツ作成に対する謝礼の件（河野理事）

E-learning 講義のコンテンツの新規作成を 4 件、現行 4 件の改訂（すべて学会会員に依頼）を予定しているが、作成の負担（PPT・ナレーションの作成と mp4 ファイルの作成）を考え、学会会員であっても謝礼を支払うことについて高橋理事長より、全体を把握したいため各委員会委員長は委員会活動において作業費（謝礼）を支払った方がいい業務内容、希望金額を事務局に提出することが提案され、継続審議とした。

細野監事より他学会の作業費について調べた方がいいと提案があった。

第 5 号議案 男女共同参画推進委員会、名称変更の件（芳本理事）

男女共同参画推進委員会で委員会名の改称を検討した。他学会と重複しないよう、名称を「DEIB 推進委員会（多様性・公平性・包括性・帰属意識）」に変更し（カッコ内も含めて委員会名）、それに伴い委員会運営企規を変更することが上申され、出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

- ・多様性（Diversity）
- ・公平性（Equity）
- ・包括性（Inclusion）
- ・帰属意識（Belonging）

〈委員会運営規定〉

（運営目的）

第 2 条 委員会は、新生児医学・医療における男女共同参画社会の形成の推進を行う。

→

第 2 条 委員会は、新生児医学・医療において、多様な人材が互いに尊重しあい、公平な機会のもとに、力を発揮できる環境作りを推進する。

（業務）

第 7 条 委員会は、次の業務を行う。

- （1）新生児医学・医療における DEIB 推進に関する調査を実施する。
- （2）DEIB 推進に関する本法人会員の活動を支援する。
- （3）DEIB 推進に関する事項の本法人会員への広報、教育を実施する。

第 6 号議案 旅費規程見直しの件（中西理事）

現行の旅費規程の宿泊費は 1 日当たり 13,000 円（税込）となっている（2020 年 8 月制定）。昨今の物価高に

よりこの金額で宿泊できるホテルは少ない。旅費規程の見直しについて検討した。

現在の運営規定が制定された際に「宿泊料の定額は、国家公務員等の旅費に関する法律（以下「旅費法」という。）の改正があった場合は、これに準じて改正されるものとする。」と示されているが一度も改正されておらず、また「この規程の改廃は、総務委員会の発議により、理事会の承認を得なければならない。」とあるため、総務委員会で検討することとし、継続審議とした。飛行機を利用する際など、早めに予約をすれば安くなるため、そのような努力目標を規定に示すことも検討することとした。

第7号議案 SGAとFGRの定義の件（中西理事）

日本周産期・新生児医学会の「産婦人科ガイドライン作成委員会」において、2026年のガイドライン改訂の際に、SGAとFGRの定義について改訂案が出ているが、混乱を招く可能性がある判断した。

これまで日本国内でFGRで定義されていた胎児発育遅延について、海外での発育不全の診断基準に基づいて、以下の分類を導入する意向となっている。

- SGA＝「体質的に小さい」胎児、新生児。推定胎児体重や出生体重が妊娠週数に対して10パーセント以下未満。
- FGR＝「本来の成長が妨げられた病的な状態」胎児。推定体重＋臍帯血流計測値のパラメーターなどで評価。

つまりこれまで、出生後の体重に基づき使用していたSGAを、胎児期の評価としても使用することになる。まだ正式に決まったわけではないが、今後、日本産科婦人科学会では、会員に以下のタイミングで周知を図っていくとのこと。

1. 周産期委員会報告が出た段階
2. 「日本産科婦人科学会 診療ガイドライン（産科編）2026」でSGAとFGRについての記載部分に上記の記載を補足として追加する予定で、当該ガイドラインが公開された段階
3. 可能であれば「日本産科婦人科学会 診療ガイドライン（産科編）2029」では完全に置き換え

日本産科婦人科学会での話であり、産科領域で定義が変わったとしても、実質、新生児の診療自体に影響はないが、用語の統一という点で混乱が起きることが想定される。この定義がそのまま採用となった場合には、「（胎児期は）SGAだったけれど、（生まれたら）SGAではなかった」という状況が出る可能性がある。また海外のSGAの定義は、板橋先生らの研究から得た生後体重に基づいたSGAとは異なるものを見ているため、用語は同じでも根本的に違うものを見ている。

日本小児科学会の「新生児委員会」（2025年4月18日開催）でも議論がされたということで、本学会でも、状況の共有と、今後の対応について協議した。

日本でSGAは出生時の概念であり、小児科としては認められず、日本独自の用語、例えば胎児SGAなどを産科に提案してはどうか、という意見があった。

また、海外の小児科はどのような対応をしているのかという質問があがり、欧米の小児科学会の対応は調査中であることが報告された。

日本周産期・新生児医学会では「産婦人科診療ガイドライン委員会」の中でも意見が分かれており、2026年のガイドラインへは掲載できないのではないか、となっている。

日本国内の用語は日本医学会の用語委員会が最終的に決定する報告があり、本学会としては「慎重な対応を求める」こととした。

第8号議案 学術集会における非会員への交通費、謝礼支払の件（落合理事）

学術集会における非会員への交通費、謝礼の支払いについて、学術集会企画の際は大会長の判断で謝礼等を支払っている。

第69回学術集会では医療安全委員会、社会保険委員会、薬事委員会合同シンポジウムを企画しており、招聘する非会員への交通費、謝礼について協議する。

- ・厚生労働省からの招聘については現金の受け取りが不可のため、発生しない
- ・非会員の招聘に関しては、これまで該当セッションのみの参加としていた。参加証とは別に名札を用意し、出入口まで送り迎えする
- ・新生児看護学会会員の看護師の招聘に関しては看護学会に参加登録している際は、謝礼や交通費の支払いはなし。お互いの学会に行き来できる合同開催となっている

委員会企画以外の講師については大会長が謝礼を支払っている。ただし、本学会に関しては学術集会の収支は学会本体に取り込まれるため、最終的には同じ会計となることから非会員の講師については謝礼を支払うことが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。

謝礼の金額、交通費の支払い、参加費の支払いに関しては次回理事会で、「第 69 回学術集会」における取り決めとして検討することとした。

第 9 号議案 定款改訂および定款施行細則変更の件（荒堀理事）

現状を踏まえて一部の定款および定款施行細則を改訂する。

定款第 15 条 -6

- ・代議員の任期の確認：任期の終了は総会前か後か（確認中）

定款第 23 条

- ・総会の通知方法の表記を変更：書面をもって→書面または電磁的記録により

定款施行細則第 2 条

- ・名誉会員の選考基準の変更：「この法人の理事長に就任した者」を追加

定款施行細則第 8 条

- ・再入会の文言の修正：「定款第 9 条により退会となった者」→「定款第 11 条」に修正

定款施行細則第 18 条 -2

- ・代議員および理事の選任規定：「所定の用紙をもって」→「所定の様式」に変更

定款施行細則第 23 条

- ・理事会および総会の議事録は理事会の承認を得ることとし、委員会の議事録は理事会承認は不要

第 6 章（委員会名）

- ・統廃合した委員会、改称した委員会へ対応し、変更

上記の変更に出席理事の過半数の賛成で承認可決された。定款第 15 条 -6 については引き続き関係各所へ確認する。定款の変更となるため、次回社員総会に上申する。

第 10 号議案 施設連絡網の件（荒堀理事）

第 2 回理事会で施設代表を設置し、連絡網を作成することとなった。あらためて総務委員会にて本学会の施設代表者リストの作成について協議した。

至急の情報提供を行う際に施設代表者リストがあれば迅速に対応可能であると考え、作成することとなったが、①異動に伴う管理が煩雑であること②会員全員宛メール送信のシステムを利用できること③各施設での調査の場合においても各施設 1 名に返答依頼をすればよいこと、以上の理由より施設代表者リストの作成は不要であるという意見が多く、作成しないこととなった。

第 11 号議案 クラウドファンディング案内の件（高橋理事長）

会員より自施設で開催している医療的ケア児のためのクラウドファンディングの案内を学会ホームページへ掲載依頼があった。また別件で NICU 卒業児が開催している絵画展の案内についてホームページへ掲載可能か問い合わせがあった。公平性の問題もあり、いずれも一旦お断りした。このような個人の活動を学会ホームページやエックスへ掲載することについて、基本的に今後も案内をしないこととした。

第 12 号議案 学会誌掲載論文の企業買い取りの件（高橋理事長）

学会誌に掲載した論文（学術集会の講演録）に、企業より別刷り買取希望があった。

これまで、別刷りは著者への販売のみであった。現時点で原著・ガイドラインの使用にあたる料金表がある。今回は事案の共有とし、今後、同様の依頼が続く際は、詳細な金額設定を検討することとした。

第13号議案 退会勧告者の再入会の件（高橋理事長）

第2回理事会より継続審議となっている退会勧告者の再入会について、あらためて当時の理事長である楠田 聡先生に確認をし、当時の対応について報告があった。

早川監事より今審議における理事会の判断が今後、同様のことがあった際の判断基準となるため、再入会を承認するにしても、否認するにしても、明確な理由が必要となると意見があがった。

検討の結果、再入会は承認できないことが出席理事の過半数の賛成で承認可決された。対応は理事長に一任することとした。

第14号議案 学会事務局委託費、変更の件（高橋理事長）

2019年に契約して以降、見直しをしてこなかった事務局委託費についてメディカ出版より改変の申し入れがあった。次回の見直し時期を設定し、また他の業者に相見積もりをとることも検討することとし、次回継続審議とした。意見がある際は理事長宛に報告することとした。

3. 第69回学術集会（高橋会長）

2025年11月13日（木）～15日（土）、パシフィコ横浜 会議センター

テーマは「激動の社会の新生児医療～未来への勇気と希望～」

日本新生児看護学会は11月14（金）～15日（土）

テーマは「激動の社会の新生児看護—伝え続けること・変えていくこと—」

懇親会を11月13日（木）18：30～「ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル」で参加費を5,000円として開催予定。

英語での一般演題を募集する。本日（5月27日）より演題登録を開始している。

4. 第70回学術集会（森岡会長）

2026年11月20日（金）～22日（日）、パシフィコ横浜 ノース

テーマは次回公開、サイエンスやイノベーションを中心に検討している

5. 第71回学術集会（日下会長）

2027年11月25日（木）～27日（土）、香川県 サンポート高松

6. 各種委員会報告

1. 国際渉外委員会（難波委員長）

1) IPOKRATES JAPAN について

- 開催時期：2025年10月16日（木）～18日（土）の3日間

- 開催場所：ウェスタ川越（埼玉県川越市）

- テーマ：Prevention and Treatment of Prematurity-related Morbidities

- 参加登録受付中（締切：250名申込時）

11名（フィリピン、オーストラリア、台湾、オーストリア、インド）（4/11現在）

<https://ipokrates.info/seminars/details/prevention-and-treatment-of-prematurity-related-morbidities>

- ポスター発表抄録受付（締切：5/14（水）、12：00）

https://ipokrates.info/files/ipokrates/pdfs/2025_Tokyo/Abstract%20Submission%20Guideline.pdf

- 演者：Phyllis A. Dennery, Souvik Mitra, Josef Neu, Tetsuya Isayama, Anup Katheria, Peter Dargaville,

Hirofumi Sawada, Ju-Lee Oei, Barbara Schmidt, Haresh Kirpalani, Douglas Campbell (11 名)

• ワークショップ

- ① Neonatal Simulation Training in Japan : A Hands-On Workshop
- ② How to plan and conduct sound randomized controlled trials
- ③ Techniques of surfactant delivery via thin catheter

• 運営事務局：株式会社 MA コンベンション

2) 台韓日 joint congress について

- 日 時：2025 年 10 月 26 日（日）
- 会 場：台南市（台湾）
- テーマ：Stem cells for neonatal diseases
- Travel Awards：学術奨励賞・学会論文賞と、優秀演題賞の受賞者から選出中
- 役割者（座長、特別講師、理事長、委員長）、Travel Awards 受賞者を派遣予定
座長：藤岡一路

特別講師：向井文雄（演題名：Umbilical cord as a specimen for disease characterization and a source of stem cell therapy）

2. 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

- 1) 2024 年 1 月 16 日の通信理事会で承認された「日本の NICU でのパレコウイルス感染症の院内発症の全国調査」の集計が完了し、欧州小児感染症学会および本学会で発表し、成果のフィードバックを行う。

3. 薬事委員会（落合委員長）

- 1) 日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目検討依頼

【06 疑 1231】【07 疑 1732】

- 2) 「薬理作用に基づく医薬品の適応外使用事例」の募集 情報なし
- 3) 「医療用薬品添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査」への協力依頼 情報なし
- 4) 学会ホームページの会員サイト、薬事委員会に「臨床試験（特定臨床試験、治験を含む）募集情報」を掲載している
 - 未熟児動脈管開存症に対するアセトアミノフェン静注療法の安全性及び有効性に関する多施設共同ランダム化比較
 - 小児静脈栄養関連胆汁うっ滞（腸管不全関連肝障害）に対する魚油由来静注用脂肪乳剤の有用性と安全性に関する医師主導治験
- 5) 薬事委員会を開催（第 2 回：2025 年 4 月 22 日）
第 69 回学術集会での共同企画について検討
- 6) エーザイ株式会社より厚労省へ不採算品再算定の適用による薬価引き上げ依頼
チョコラ A 滴：採用
チョコラ A（錠・末）、ケイツーシロップ、ケイツー N：不採用
- 7) 医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議
ダルベポエチンアルファ（遺伝子組換え）の早産児貧血への適用拡大を要望
- 8) 日本小児科学会薬事委員会
 - ①厚生労働省 安定確保医薬品の見直し 当学会より要望提出
 - ②厚生労働省 国内未承認薬アクセス確保事業 当学会から当該医薬品なし
 - ③小児の治療薬（南江堂）新生児領域の執筆依頼、日本医師会疑義解釈委員会より供給停止予定品目検討依頼

4. 男女共同参画推進委員会（芳本委員長）
 - 1) 代議員選挙にクォータ制（地域制など）の導入を検討
各地域の代議員の年齢分布を参照し、検討する。
5. 広報委員会（水野委員長）
 - 1) 学会公式 X、広報 X を通して情報提供している。公式 X は定期的にポストしているが、広報 X のポストが少なく今後、運営方法を見直す予定である。
 - 2) 学会ホームページに研究会・セミナーなどの案内を掲載（2024 年度 28 件）。
6. 病気・ケアの解説作成 WG（長谷部 WG 委員長・代 水野理事）
 - 1) コアメンバーで月に 1 回程度オンライン会議を開催し、進めている。
7. 医療安全委員会（影山委員長）
 - 1) エアライフジャパンが取り扱う閉鎖式気管吸引カテーテル「5Fr トラックケアー新生児小児用 Y 型」および薬液注入カテーテル「トラックケアー MAC」の一時的な供給停止に対して、理事長、診療委員会委員長と協議し、学会ホームページに重要なお知らせを掲示した。
8. フォローアップ認定医制度委員会（河野委員長）
 - 1) 2 月 26 日（水）に委員会を開催し、症例選択の基準、要約書作成の注意点の変更に伴い、審査基準と方法を変更した。また、2026 年度の暫定制度から本制度への移行に伴い、E-learning 講義 4 項目の追加内容を決定した。
 - 2) 第 69 回学術集会でのワークショップ開催について委員会のメーリングリストで検討し、申請した。
9. 医療の標準化委員会（諫山委員長）
 - 1) 近日中に「PDA ガイドライン version 0.5」「CLD ガイドライン version 1.0」のパブリックコメントを予定。
 - 2) 早産児の予後改善を目指した「栄養管理のガイドライン」の作成を開始した。全国からガイドライン作成メンバーを募集して、総勢 157 名が集まった。現在、PICO の整理をしており、2026 年度中旬に第一弾完成を目指している。
10. 診療委員会（豊島委員長）
 - 1) 第 1 回診療委員会を開催（2025 年 1 月 21 日）
委員顔合わせと委員会の趣旨と活動の報告性の確認。小児慢性特定疾患の制度などを確認。「先天性心疾患のサチュレーションモニターによるスクリーニング事業」「早産児の先天性心疾患のカテーテル治療」「小児慢性特定疾患の申請」に関するこれまでの委員会の活動や情報を共有。
 - 2) 「低体重児の動脈管開存症に対する経カテーテル動脈管閉鎖術管理委員会（U2000-PDA）」の会議に参加（2024 年 12 月 16 日（月）／2025 年 3 月 11 日（火））
日本小児循環器学会、日本先天性心疾患インターベンション学会、本学会合同の会議に診療委員会委員として出席。適正使用指針の改定、市販後調査の課題、PLASE 研究などの関連論文紹介、今後の多施設研究の可能性などについて議論。治療マニュアル作成と術者間連携による啓発活動を目的としたワーキンググループの設置。
 - 3) 「日本小児科学会第 2 回小児慢性疾病委員会」（2024 年 11 月 18 日）に参加
疾患の小児慢性特定疾病追加申請の審議に参加し、疾患ごとの検討と申請の可否に関する委員会判断に参画した。
 - 4) 第 69 回学術集会にフォローアップ認定医制度委員会と合同で「早産児・低出生体重児のフォローアップ」に関する企画を提出した。
11. 社会保険委員会（佐藤委員長）
 - 1) 令和 8 年度診療報酬改定の提案書を新生児系合同社保委員会（日本小児科学会、日本周産期・新生児医

- 学会、日本新生児看護学会、本学会）で作成し、内科系学会社会保険連合に提出した。
- 2) 令和 6 年度診療報酬改定で承認されたアルブミン非抱合型ビリルビンに関して、令和 7 年度医療技術報告書を作成し提出した。
12. 医療の質向上委員会（長委員長）
- 1) サーベイランス事業
「気管切開を要した慢性肺疾患」（調査期間：2024 年 4 月～2026 年 3 月 31 日）
- 2) フォローアップ事業
「低出生体重児の中長期的な心身の健康リスクの解明とフォローアップ・支援体制の構築に向けた研究」（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 河野班）が進行中
13. 学術委員会（日下委員長）
- 1) 論文賞の選考
- ① 2024 年度学術奨励賞受賞者
設楽佳彦氏（東京大学医学部附属病院小児科）
論文名：Host-derived protein profiles of human neonatal meconium across gestational ages
掲載雑誌：Nature communications 2024；15：1-13
- ② 2024 年度学会論文賞受賞者
早田茉莉氏（川口市立医療センター新生児集中治療科）
「NICU 入院中の家族への画像・情報配信による家族への影響」
36 巻第 1 号 137-145 頁掲載、受理日：2023 年 7 月 31
14. 英文誌 WG（和田和子 WG 委員長）
- 1) 5 月 8 日（木）第 1 回英文誌 WG 会議（web）を開催
- ①これまでの振り返り
英文誌創刊を検討することは前期の決定事項であり、具体的な課題に取り組む。
- ②本年度の学術集会にて、ワークショップ「学会英文誌発行に向けて」を開催する
他分科会（日本小児内分泌学会、日本小児循環器学会）、PI、本学会学会誌編集委員会に登壇者を依頼する。
- ③ワークショップで得られた情報をもとに具体化していく。
15. 学会誌編集委員会（東海林委員長）
- 1) 37 巻 2 巻の特集テーマは「NCPR 過去と現在と未来」とし、現在製作中
1. 総論：練馬光が丘病院 細野茂春先生
2. 本邦における新生児蘇生の歴史：浜松医科大学 飯嶋重雄先生
3. NCPR 体制の構築：埼玉医科大学総合医療センター 田村正徳先生
4. 医療者教育としての NCPR：埼玉医科大学総合医療センター 加部一彦先生
5. NCPR の未来：名古屋市立大学大学院医学研究科 杉浦崇浩先生
- 2) 5 月 29 日（木）に委員会を開催し、今後の特集テーマを検討する。
- 3) 投稿論文が増えている。今日現在で昨年 1 年間に応募のあった本数と同じ数となっている。
16. 倫理委員会（北畠委員長）
- 1) 2 月 20 日（木）、3 月 26 日（水）、5 月 2 日（金）に委員会を開催
- ①「重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン」をより広く活用してもらい理解を深めるために、第 69 回学術集会で開催する WS について検討した。
- ②出生前コンサルト小児科医の現状把握とこれからの取り組みについて話し合った。
17. 災害対策委員会（徳久委員長）

- 1) 令和6年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
「大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる災害医療提供体制強化に関する研究」
分担研究課題「周産期・小児医療提供体制に関する研究」BCP作成。
18. 総務委員会（荒堀委員長）
 - 1) 第1回総務委員会を3月18日（火）にZoomで開催した。
 - 2) 外部理事・外部監事選出
公益法人法改正に伴い外部理事・外部監事を置くことが義務づけられた。他学会での選出を参考に定款を改定する予定である。
19. 教育委員会（中西委員長）
 - 1) 第69回学術集会 教育委員会企画は以下で進める
ワークショップ：今年もやります！プレゼンテーションの極意第2弾 いまさら聞けないコツを教えます！！（座長：中西秀彦・杉浦崇浩）
 - 2) 第11回NICU入門セミナー（WEB）
実行委員長：柳 貴英委員
開催日：2025年5月17日（土）13:00～18:30
参加費：学生・会員は無料、非会員2,200円（税込）
参加者：67＋モニター参加
 - 3) 第28回教育セミナー（現地開催）
実行委員：久保田真通委員、鷺尾洋介委員
開催日：2025年8月2日（土）～4日（月）
会場：倉敷アイビースクエア（岡山県倉敷市）
参加費：会員；17,600円（16,000円＋税）、非会員；35,200円（32,000円＋税）
 - 4) 教育セミナー参加者の追跡調査
担当：増山 郁委員
2015～2024年の10年間に開催されたセミナー参加者を対象に、アンケート調査を計画中
 - 5) 「新生児医療へのいざない」の改訂（<https://jsnhd.or.jp/izanai/>）
現委員会メンバーで改訂する。項目を中西委員長が立案した。
新生児を診られる医師、新生児科医を目指す医師へ送る言葉を作成する。
20. 慢性期iNO保険収載WG（中西WG委員長）
 - 1) PAS 2025 in Hawaiiで、急性期以降iNO臨床使用に関するエビデンス抽出のためのスコーピングレビューのポスター発表を実施
・研究担当者：加藤晋先生
・Kato S, et al. "Scoping review of initiation criteria for inhaled nitric oxide in preterm infants after 7 days of age" BMJ Open
 - 2) 慢性期iNOの本邦のNICUにおける実態調査アンケート案の作成と実施
・宮田昌史先生にアンケート結果に関する論文製作中
・第1弾はPediatricsに投稿したがリジェクト。再校正して、ADC F&N ediに投稿予定。
 - 3) 上記論文とNRNJからの論文を基に、保険収載に向けて申請する予定
・PMDA以外の経路として、「55年通知」での申請に向けて書類作成予定
21. 新生児シミュレーショントレーニング普及推進WG（甘利WG委員長・代 中西理事）
 - 1) 活動実績と今年度の活動方針
・全体ミーティング2回。今年度は指導者養成プログラムの作成、外科疾患児出生時対応プログラムの

新規作成、病状説明プログラムのアップグレード、の3つに取り組む予定。

- 指導者養成、外科疾患、病状説明の3グループに分かれて活動している。グループミーティングはこれまでに計5回開催。
- 外科疾患、病状説明の2つは、第69回学術集会での実施を目指している。指導者養成は学術集会とは別の機会に実施することを検討しつつ、プログラムの構成を練っている。

2) 7月の周産期・新生児医学会 学術集会でのハンズオンセッション（2時間）、10月のIPOKRATESでのハンズオンセッション（2時間）について準備中である。

22. 学会将来構想委員会（和田和子委員長）

報告なし

23. 利益相反委員会（山田委員長）

報告なし

24. 用語委員会（山田委員長）

SGAの案件で手伝えることがあれば、依頼ください。